

「第十一回熊本県医療人 育成総合会議」の開催

常任理事(事業担当) 片渕 秀隆

医療は、サイエンス、アートそしてヒューマン・プラクティス(対人行為)の融合体だという。そのいずれもが高度な内容を要求するのが際立つ特徴といえよう。医療人育成における臨床実習は、このうちの主として技術面と対人行為面との習得を担当すると考えられる。

昨年の本会議(第十回)「医学教育の世界標準化と診療参加型臨床実習」で議論したごとく、近年の臨床実習の方法ではクリニカルクラッシュ(臨床参加型)が世界標準化してきている。この方法は、学生を医療スタッフの一員に位置付けるため、必然的に医療現場における医療スタッフの密度と患者との接触時間を増大させる。

ところが今回のコロナ禍では、医療スタッフ密度と患者との接触時間の最小化最短期が至上命題となった。このため、一時的ではあれ、臨床実習体制は制限を余儀なくされた。臨床実習体制の再構築に向けて、実習シミュレーターとヴァーチャルシステムをいかに活用すればよいのか。
また、それらが十全に機能したとし

て、残るものは何なのか。臨床実習の本質と課題について議論を行った。実行委員・片渕秀隆(委員長) 入江徹美、尾池雄一、河野文夫、迫田芳生、須加原一博、中村公俊、古川 昇、松下修三、山本哲郎、石塚洋一、安武綾、池田耕治

事務局…吉本昭彦、三浦敬三、万田麻央
協力…高橋酒造株式会社、一般財団法人化学及血清療法研究所
後援…熊本日日新聞社

実行委員会で会議の内容の詳細を立案し、実施した「第十一回熊本県医療人育成総合会議」の概要は次のとおり。

実施概要
テーマ「ウィズコロナ時代の臨床実習」
日時 令和二年十一月二十三日(月 祝) 開場 午後一時、開演 午後一時三十分

場所 熊本大学医学部キャンパス
会場 熊本大学医学総合研究棟三階講習室
司会 熊本大学大学院生命科学研究部 教授 尾池雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授 中村公俊氏

講演① 「コロナショックと社会の未来」
講師 中村公俊氏

講師 ヒトレトロウイルス学共同研究センター
教授 松下修三氏

講演② 「熊本大学医学部医学科での遠隔臨床実習について」
熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター 准教授 古川 昇氏

講演③ 「コロナ禍で感じた薬学部実習の問題点や進むべき方向性」
熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療設計学分野 教授 石塚洋一氏

講演④ 「コロナ禍における看護学臨床実習」
熊本大学大学院生命科学研究部在宅・老年看護学講座 准教授 安武 綾氏

講演⑤ 「臨床実習代替教育の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育」
熊本総合医療リハビリテーション学院 教育学部 理学療法学科 学科長 池田耕治氏

講演⑥ 「シミュレーション教育(シム教育)はウィズコロナ時代の医学教育の救世主なのか?」
琉球大学病院長 おきなわクリニカルシミュレーションセンター長

講演⑦ 「シミュレーション教育(シム教育)はウィズコロナ時代の医学教育の救世主なのか?」
琉球大学病院長 おきなわクリニカルシミュレーションセンター長

大屋祐輔氏
(総合討論)

司会 熊本大学大学院生命科学研究部 教授 尾池雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授 中村公俊氏

パネリスト 講演講師 六名
終了 午後五時
参加人数 約百名
講演並びに総合討論において活発な意見交換が交わされた。その後十二月二十三日に熊本日日新聞紙面に講演の内容を掲載した。

